Umbrella SWGのSAMLバイパスが利用可能に

内容

はじめに

このドキュメントでは、UmbrellaセキュアWebゲートウェイ(SWG)のSAMLバイパス(SAML)の可用性について説明します。

概要

ドメインまたはIPアドレスごとにSAMLユーザIDチャレンジをバイパスできるようになりました。

SAMLを使用してユーザIDを取得すると、特定のタイプのWeb要求と互換性がない可能性があります。たとえば、非ブラウザアプリケーションやIoT(Internet of Things)デバイスのトラフィックは、SAML IDチャレンジに正しく応答できない可能性があります。ユーザIDを取得できない場合、要求はブロックされます。SAMLチャレンジに正しく応答できない理由が非互換性の問題であることが判明している場合は、SAMLバイパスを追加して、今後SAMLチャレンジを回避できます。

宛先のSAMLをバイパスすると、ユーザベースのポリシーに対してユーザIDを照合できなくなります。ネットワークやトンネルなどの他のIDタイプは、Webポリシーと、ポリシーの結果に基づいて許可またはブロックされる要求を照合するために使用されます。

「SAMLバイパス」という新しい宛先リストタイプが使用可能になりました。宛先リストは、SAML設定を編集してルールセットに追加できます。

SAMLバイパスの設定の詳細については、Umbrellaのドキュメントを参照してください。

1. SAMLバイパス宛先リストの追加：https://docs.umbrella.com/umbrella-user-guide/docs/add-a-saml-bypass-destination-list
2. Webポリシーhttps://docs.umbrella.com/umbrella-user-guide/docs/add-a-rules-based-policyへのルールセットの追加

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。